



## ～令和7年度家庭教育学級補助金の申請を受付けています～

- 対 象 団 体 ☆ 保育園、幼稚園、小学校及び中学校の父母の会や PTA 等
- 要 件 ☆ 参加予定人数を**20人**以上とすること。
- ☆ 実施時間が**2時間**以上とすること。
- ☆ 実施場所が墨田区内であること。
- ☆ 参加者の募集は補助対象団体構成員だけに限らないこと。
- 対象となる活動経費 ☆ 講師謝礼、保育協力謝礼、会場使用料、事務用品・印刷費用 等
- 対象となる活動の例 ☆ 講演会・学習会の開催 ※子どもの同伴による参加体験も可能
- 補 助 金 額 ☆ 1団体1回 上限 **30,400円**
- 補 助 団 体 ☆ 年間 **先着15団体**
- 申 請 受 付 ☆ 令和 **8年2月6日(金)**まで、申請を受付けます。

申請書類を区ホームページ、墨田区役所地域教育支援課（墨田区役所11階）で配付しています。必要事項を記入の上、郵送、もしくは直接窓口へ持参してください。

※補助金交付についての詳細や申請書等の様式は、右記 QR コードからご覧ください。



区ホームページ

## 活 用 事 例 紹 介

補助金が活用された事例をご紹介します。

- ◆テーマ 「保護者のための包括的性教育講座」
- ◆ねらい
  - ・包括的性教育について学び、家庭内で実践できるポイントを学ぶ。
  - ・子どもが安心して暮らせるようにするための人権意識を培う。
- ◆実施時期 令和7年8月
- ◆参加人数 20人超
- ◆主催者・参加者の声
  - SNS やインターネット検索で子どもが簡単に性的な情報にアクセスできるようになっている。性被害、性加害のニュースも多い中、自分も他者も大切にする現代の性教育を求める保護者にとって、有意義な時間になった。
  - 自分ひとりで情報を集めたり勉強するには限界がある。今回の講座で具体例の説明などもあり、知識のすり合わせやアップデートができて、とても良かった。



## 子育て支援コラム

### ～読書の秋に 幼年童話のおすすめ～

ようやく秋が始まりました。11月3日の文化の日の前後2週間（10/27～11/7）は秋の読書週間です。今年の標語は「こころとあたまの、深呼吸。」。さあ、お子さんと一緒にどんな本を楽しみましょうか？

この時期は来春に新入学を控えたご家庭を中心に、読み聞かせからひとり読みへの移行に関するご質問やご相談があります。まずお伝えするのは、①「**ひとりで本を読むことができて、読み聞かせは続けてほしい**」ということ。「耳からの読書」と言われる読み聞かせは、子どもが集中して人の声（話）に耳を傾ける力を育てます。その力は、親子関係や入学後の授業への集中、友だちとのコミュニケーションなどによい影響を与えることでしょう。できれば10歳頃までは読み聞かせを続けてください。10歳頃というのは、大人が声に出して物語を読むより子どもの黙読の速度が勝り始める頃です。その時が、まさに読み聞かせの卒業期と言えます。なかには、お子さんに「（読み聞かせは）もういいよ」と言われた方もいらっしゃるかもしれません。

そのうえで②「**ひとり読みへの移行には、絵本ではなく幼年童話が必要**」です。一般的に、絵本をひとり読みへのきっかけに考えることが多いようですが、それは子どもにとって、読書（ひとり読み）が辛いものとなる可能性があります。なぜなら、文字を覚え始めの子どもは文字に集中し、絵を読む余裕はありません。そのため、言葉（文字）と絵が一体となって物語る絵本は、読みやすいとは言えないからです。そこで、ひとり読みへの移行には「幼年童話」をお勧めしています。絵本が絵の力で物語の世界へ子どもを導くのに対し、幼年童話はわかりやすい文章と文字を覚え始めた子どもに適した文字のサイズや配置、言葉で物語をイメージする手助けとなる挿絵によって、子どもの心に物語の世界を描きます。絵本で本の面白さを体験した子どもの「自分で読みたい」気持ちを幼年童話が育むのです。

近年は幼年童話の出版が増え、シリーズものも充実し始めました。それらは登場人物や場面設定などが一定なため、読書に不慣れな子どもに安心感を与えます。お気に入りの1冊や、好きな登場人物が見つければ夢中で物語を追うことでしょう。そうしていつの間にか本が読めるようになったりもします。

この秋は、お子さんと図書館で幼年童話を選んでみてはいかがでしょうか？ ゆっくりと文字をたどり、挿絵を楽しみ、ページをめくる。「自分で本を読めた」という喜びは、子どもにとって大きな自信となることでしょう。まずは、表紙や挿絵の印象で本を選んでみるのも一案です。



♪ JPIC 読書アドバイザー 児玉 ひろ美 ♪

